

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4670104563		
法人名	医療法人 春風会		
事業所名	グループホームはるかぜ黎明		
所在地	鹿児島県鹿児島市照国町3-18		
自己評価作成日	平成25年2月18日	評価結果市町村受理日	平成25年7月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

明るい雰囲気をもっと一日々生活を送っています。スタッフの定着率も自慢の一つです。オープン当初のメンバーが大部分をしめています。地域の方々との交流も盛んです。町内会、あいご会、隣近所の方々も協力的です。防災対策も、町内会の方々も積極的に協力をいただけるようになっております。母体が医療法人であるメリットをいかし、24時間緊急対応も出来ます。入居者の方々もお元気で、近くの公園、神社、天文館などにも良く出かけています。毎日、笑い声、歌声の絶えないグループホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="#">県ホームページより</a>
----------	---------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成25年3月22日		

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

照国神社近くにあり、美術館などの文化施設や天文館が徒歩圏内にあるなど利便性の非常に良い場所にホームはある。利用者が洗濯物をたたんだり、ラジオから流れる音楽を楽しむ姿が見られる。少人数での外出支援を取り入れる事でさらに、個別支援や地域交流の充実に繋がり、地域の協力者も増えている。訪問しやすい雰囲気づくりがなされている事や長年、変わらない職員が対応しているなど家族より感謝の声が寄せられている。週1回提供している刺身は、利用者の楽しみの一つになっている。管理者と職員の信頼関係も構築しており、理念にある「あなたのしたいこと・できることを尊重」しながら、その人らしく生活できるケアを日々目指している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自 己 評 価	外 部	項 目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分達で作上げた理念があります。毎朝全員で唱和し、ケアを行っています。	ホームは、「尊重したケア」「あなたの想いを気づき」などの言葉を含んだ5つからなる理念をパンフレットなどに載せている。職員は理念をしっかりと理解している。今後、職員会議などで理念の実践を確認していく意向である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域、あいご会、校区の催し物等声かけして頂き参加しています。小学生、中学生が下校途中や休みの日には、立ち寄りしてくれたり、交流は盛んです。	ホームは、山下小学校の文化祭に参加したり、2名の利用者が職員同伴で町内会の日帰り温泉バスツアーに参加するなど地域との交流を積極的に行っている。又、踊りや生花など民生委員の協力もある。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会や、地域行事等に参加し、交流を通して、理解や支援をいただいています。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。ご家族、地域住民、民生委員の方々に参加いただき、ホームでの取り組みや様子を報告し、ご意見を聞きサービスの向上に努めています。	2ヶ月毎の会議では、状態変化のある利用者状況や行事報告などについて説明している。ホームは、火災警報器を設置するなどサービス向上に繋げている。今後、運営推進委員の増員や職員の出席を検討している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センタースタッフをはじめ、市役所とも空き状況や困難ケース、クレーム、事故状況等連絡を取りながら、協力関係を築いています。	地域包括支援センターの職員の運営推進会議への参加や地域包括支援センター主催の成年後見制度などの研修に事業所が出席するなど協力関係を築いている。又、年1回介護相談員の受け入れもあり、介護相談員から聞いた利用者との面談時の様子を記録に残し、それらは確認してケアに反映させている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月身体拘束廃止について、勉強会を開き職員全員が身体拘束をしないケアを行っています。玄関の鍵は常に開けてあります。いつでも出入り自由です。	ホームは、毎月ミーティング時に身体拘束についての勉強会を行っている。職員の前で行動を制限しないなど自由な暮らしを実現している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	精神的、身体的な虐待はもちろん、言葉による虐待も行われぬように、研修や勉強会を通して学び、職員同士厳重に注意し防止に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会等積極的に参加し、職員やご家族への情報提供を行い、いつでも活用できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、必ず共に読み合わせを行い、質問等の時間を設け、納得していただいたうえで、契約、解除を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「ご意見箱」を設置しています。利用者、ご家族が職員に何でも意見、要望が言える環境にしています。運営推進会議も一役かっております。	ホームは、面会時や担当職員が中心となる毎月の便りなどで利用者の状況を家族に伝えている。又、ホームは、電話やホーム行事参加後などに家族の要望を聞いている。法人アンケートより、職員の服装について改善するなど運営やケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り、月1回の職員会議を利用して、意見や提案を聞き反映させています。	管理者は、月1回の職員会議時や業務時などに職員の意見を聞ける場を設けている。意見の中から、少人数による外出支援をするなどケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を支給し、資格取得のための研修参加や、有休もとりやすい環境を作っております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全ての職員を対象に研修に参加できるようにしてあります。有料の研修に関しては、参加費の負担をしており、研修報告を行い、質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島市のグループホーム協議会に加入し、随時勉強会や交流会をしています。地域包括支援センターを介し、同業者との情報交換も行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問、ホーム、病院にて面談し本人の声に耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何回でも見学していただき、管理者、職員、ホームの雰囲気などを見ていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用でいいのか、それ以外のサービス(小規模多機能など)の方がいいのではないかと良く見極め、他サービスの紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人と人のお付き合いという姿勢で共に出来ることは一緒に行い、共に笑い、涙を流し、時にはお叱りを受けながら、信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも、気軽に面会に来ていただき、外出、外泊をされたり、ホームの催し物や、地域行事への参加などを一緒に楽しんでいただく機会を作っています。電話も自由に使えるようにしてあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や、友人などと自由に交流が出来るように支援しています。	馴染みの人や場については、入居時に家族へ「私の暮らし方シート」に記載してもらい、入居後については、職員が把握している。馴染みの美容院へ行くなど個々に応じて支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんとホールで過したり、歌を歌ったり、ラジオ体操をしたり、散歩に出かけたり、お互いの居室を行き来されたり、和気あいあいとした生活ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族の方が、お花や、野菜、季節の物(カレンダー等)良く届けてくださり、思い出話をされたり、身近な方の相談を持ってこられたりと多くの方々との交流が続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望や想いを最優先し、困難時は、ご家族、職員、主治医などの考えも参考にし本人と話し合いながら、検討しています。	職員は、入浴時や居室でくつろいでいる時などに本人の思いや意向を把握し、本人の意向を尊重した支援ができるように努めている。職員は、ケア記録に記載し、申し送り時などで情報を共有し、ケアにあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活歴を聞くと共に情報収集に努め、その人らしい生活が出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の心身状態を良く観察し、したいこと、出来ることを尊重し、大いに力が発揮していただけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にあたっては、ご本人、ご家族、職員を交えサービス担当者会議を開き、ご意見、ご希望が反映できるようにしています。	介護計画は、利用者や家族の他、主治医の意見を踏まえ作成されている。サービス担当者会議には、家族の出席もある。又、計画作成担当者は、毎月職員の意見を踏まえモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面、生活面、リスク面を記録に残し職員間の情報共有を徹底し介護計画への見直し評価を実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険の中のグループホームとして対応できる事はやっています。母体が医療法人なので体調管理や栄養管理など支援しています。外出、外食も自由にでき、フットケアを利用されている方もいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、町内会の協力をお願いし、校区の催し物、運動会、文化祭なども招待を受け参加しています。ボランティアの方も協力的です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望されるかかりつけの医療機関、病院を受診、往診お願いしています。	かかりつけ医は、利用者や家族の希望するところになっている。通院は、原則、家族支援であるが、必要に応じて、職員が同行している。又、協力病院については、ホームで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療機関とホットラインを結び、いつでも相談できる体制を整えています。その他の医療機関とも受診時、往診時に相談できています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師、ご家族との情報交換を行い安心して入院し出きるだけ早期に退院できるように支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、重度化した時や、終末期についてはご家族と話をしていきます。主治医の意見を取り入れ、看取りも行います。	重度化・終末期のケアについては、入居時に本人や家族と話し合い、ホームの指針を説明し、同意を貰っている。ホームは、看取りについての振り返りや反省をし、次回の支援に向けて最良のケアができるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の避難防災訓練を行う時消防署の方より緊急時の対応の仕方学んでいます。心肺蘇生法なども勉強しています。ホットラインを開設し24時間対応できるシステムが確立されています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会や近隣住民の方、近くのケアハウスにもご協力をお願いし、避難先も確保して、避難訓練を行っています。	ホームは、年1回消防署立ち合いで夜間想定訓練や年1回自主訓練を行っている。又、4～5名の近隣協力者も訓練に参加している。備蓄品として、水・カップ麺・缶詰を準備している。	ホームは、あらゆる想定でさらに自主訓練やシミュレーションを実施し、各々のマニュアルを作成してスタッフが自信をもって利用者を安全に避難誘導できることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉の暴力には十分配慮しております。特に耳の不自由な方への声かけに、大声を出さず、周りにも配慮しながら声かけしています。	職員は、認知症について研修をしている。職員は、オムツ交換時や日々の声かけなどプライバシーを損ねない接し方に努めている。	ホームは、グループホームにおけるプライバシーのマニュアル作成や研修を行うことでさらに日々のケアに反映されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の場面場面で、話を聞き、顔色、行動、表現、などからご本人の希望に添えるように働きかけ対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	昼食、夕食はある程度時間を決めています。朝食や、入浴はご本人の体調や希望を考慮し、希望に沿った柔軟な支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人、ご家族の希望や好みの物を着ていただいております。美容院や訪問理容で好みの髪型や、染めをしています。おしゃれな方が多いです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳、食器洗いやお盆拭き等積極的に手伝ってくださいます。行事食や、出前、外食もとても盛んです。季節の食材も良くいただきます。目でも楽しんでもらっています。	1ヶ月分の主菜となる献立は、全職員で決めている。週1回は、刺身を取り入れている。又、敬老会の行事食や寿司屋に出かけるなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事料は毎日記録し個別に好みの物を提供し、毎晩晩酌を楽しまれたり、食事もトロミ、刻みなど状態や体調に合わせて支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員の方に、声かけ、見守りを行い、出来なかつたり、嫌がられる時は介助を行い、就寝前は義歯洗浄を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけることで、排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、オムツは使用せず、夜間もポータブルトイレを使用し自立にむけて支援を行っています。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、トイレへ誘導している。夜間のオムツ対応から居室にポータブルトイレを設置することで排泄可能になるなど排泄の自立に向けた取り組みがケアプランによりよく記載されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表をつけることで、排泄パターンを把握し便秘時は、お薬も使用します。毎日、牛乳やヨーグルトを提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日を設けていますが、希望があれば、毎日でも入浴は可能です。柔軟に対応しています。	ホームは、入居前の入浴時間で対応したり、利用者に入る順番を聞くなど個々に添った支援をしている。又、好みのシャンプーを使用したり、利用者同士で入浴するなど入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェック表を付ける事で、昼間にその人らしく過ごして頂き安眠できるように1日のリズムづくりに努めています。あまり眠れない時は、昼寝も促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療記録や薬情について理解し医師や看護師、薬剤師などからも説明を受けています。服薬や薬の変更時は必ず申し送り、声かけし支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、食器洗い、洗濯干し、たたみ、掃除など出来ることを一緒に行います。好きな事(買い物、散歩、外食、ドライブ、晩酌等)を把握し個性を活かせるように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り希望にそえるように支援しています。町内会の温泉旅行なども参加し、日常的には近くの公園や神社への散歩や買い物、ドライブに出かけています。	天気のいい日は、玄関先で歌ったり、草むしりをするなど外気に触れる支援をしている。本人の希望に応じて、天文館でかき氷の白熊を食べたり、二科展を観に行くなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金はお持ちでないですが、財布を持ち少しのお金を管理されている方もおられます。一緒に買い物に行ったりされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、希望に沿い自由に使えるようにしています。家族の方からの電話や手紙等もよくきており、返事なども出されています。携帯電話をお持ちの方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵や花、写真、季節の行事に合わせて飾りつけをしています。	共用空間には、畳間やソファ、足裏マッサージ器もあり、くつろぐスペースがある。トイレのドア開閉時の音を軽減するため、ドアにスポンジを取り付けるなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席はある程度決まっていますが、その時々でソファや和室で思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や電化製品を、ベッド、仏壇などを持ち込んで安心して生活できるようにしています。	居室には、木枠のベッドやエアコンを備え付けてある。又、使い慣れた家具・カーペットなど馴染みの物を持ち込まれており、個性のある居室づくりができています。利用者や家族の了承の下、利用者の状態に合わせて、ベッドの向きを変えるなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ハード面での問題はありますが、少しでも安全に生活できるように目配り、気配りをしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝スタッフ全員で唱和し日々振り返り話し合いながらケアに努めています。ミーティングでは話し合い具体的なケアの統一を図っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会を始め、あいご会他、交流も多く校区内の行事や文化祭などにも積極的に参加させていただいております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム横のゴミステーションの掃除をしたり町内会の行事など準備から手伝って参加させていただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、ホームでの活動や生活ぶり等をお知らせし又ホームに対する意見も頂きながらサービス向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題(事故)や疑問が生じた時は連絡し助言を受けながらサービスを提供しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはならないとスタッフ全員が理解し身体拘束廃止委員会を設け毎月勉強会を開いています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的な暴力による虐待が行われないようお互いに声かけし、時には勉強会をしながら嚴重な注意を払い防止に努めています。		

鹿児島県 グループホーム はるかぜ黎明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の手続きされている方がおり研修資料等を活用しミーティング等で話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	共に重要事項説明書を読み合わせ、質問等の時間を十分に設け納得していただいた上で契約、解除を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「御意見箱」の設置を行うと同時に面会時など家族に「何かありませんか？」の声かけを行っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回のスタッフ会議、管理者会議を利用して意見を聞くようにしています。日頃より何でも言える環境に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を支給し、資格取得の為の研修参加や、有休もとりやすい環境をつくっております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は積極的に参加しています。研修報告、閲覧しスタッフの質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿児島県、鹿児島市のグループホーム協議会に加入し勉強会、交流会に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問、ホーム、病院にて面談し本人の声に耳を傾けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	何回でも見学していただき、管理者、職員、ホームの雰囲気などを見ていただいています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの利用でいいのか、それ以外のサービス(小規模多機能など)の方がいいのではないかと見極め、他サービスの紹介もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や掃除、洗濯物など日課を通して一緒に過ごす中で教えていただく事や励ましの言葉をいただく事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力をもらい生活やホームの行事など一緒に楽しんでいただく場面や機会をつくっています。遠方のご家族には毎月のホーム新聞で近況報告をし安心していただけるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居となるまでの情報を集め入居されてからも親戚や友人の面会を大事に支援し又毎月の倫理の会へ参加等の機会をつくっています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方や性格、考え方等お1人お1人を把握し利用者同士の関係が円滑になるように調整役となり支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の方とお付き合いは継続しています。家族の方も時々立ち寄りくださり懐かしい話をしてくださいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望を第一に考え、ご家族やスタッフと検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を聞き情報収集に努め、入居後も情報収集に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態、感情表現を観察し小さな変化に気付けるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、スタッフとサービス担当者会議を開き意見や希望を反映できるようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面、生活面、リスク面、スタッフの気づきを記録し、評価話し合いをし、より良いケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望時は宿泊しております。訪問看護、往診をし看取りをしました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防の協力をお願いしています。ホームの行事の際は地域の方やボランティアによる催しや校区の運動会、文化祭など招待を受け参加しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望するかかりつけの医療機関を受診してもらっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の医療機関と24時間ホットラインを結び、いつでも相談できる体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医や看護師、ご家族との情報交換を行い安心して入院し出来るだけ早期に退院できるように支援しています。入居者の方々もお見舞いに行ったりもされてます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より健康管理をご家族と共有しており、医療管理が必要と予想される方の場合、終末期の対応及び過ごし方についてご家族、主治医を交え意見交換、話し合いを行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練を行い緊急時の対応を勉強しています。ホットラインを開設し24時間対応できるシステムが確立されています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を行い、町内会はじめ近隣の方にも協力いただけるようお願いしています。防災避難マップを準備し訓練しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手の立場に立ち、言葉の暴力にならないように努めています。記録、個人情報の取り扱いについても慎重に取り扱っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望に気付けるように観察し、希望を表現できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴、外出など希望や体調に合わせて柔軟に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自宅より持ってきた物や家族購入の好みの物を着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、下膳、食器洗い、お盆やテーブル拭きなど積極的な参加もあり一緒に行っています。食器や食事形態を工夫しています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の記入や確認をし、好む物や食事形態の工夫で栄養バランスの配慮をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけ、見守りし必要に応じて介助しています。就寝前歯は義歯消毒しています。		

鹿児島県 グループホーム はるかぜ黎明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンの把握に努め誘導しています。夜間オムツ使用で日中はオムツを使用していない方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の牛乳や好む飲み物で水分量の確保、排泄チェック表から把握し体操や散歩などで運動を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回(月・水・金)の入浴日を設けていますが希望の時間で入る方や入浴日以外を希望される方もいます。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠チェック表から把握し夜間に安眠できるように昼間の過ごし方を工夫したり、睡眠時間や体調を考慮し昼寝を促しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師、薬剤師から説明を受けています。医療記録や薬情を確認し変化時は医療機関に報告、相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割や楽しみ、好きな事を把握し生きがいを持たせるようにしています。(食器洗い、洗濯物、掃除、食事の準備、片づけ、歌、仏壇)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外食や毎月の倫理への参加、近隣へ散歩や買物へ出かけています。		

鹿児島県 グループホーム はるかぜ黎明

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は少ないですが財布を持ち、買い物へ一緒に出かけています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をしています。ご家族からの電話や手紙、知人からの年賀状などがきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にはボランティアの方が季節感のある写真を飾ってくださいます。絵や花、小物、写真などを季節や行事に合わせて飾り付けをしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席は決まっていますが、テレビ視聴や洗濯物たたみをする時など他席、ソファ、和室で過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたベッド、仏壇等や希望で冷蔵庫を持ち込まれ、安心して生活できるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室やトイレが分かるように張り紙をし、同じ場所に物を置くようにしています。迷われたり混乱された時は、その都度さりげなく声かけをしています。		